



堀田晋一朗

ファイナル3で東レを撃破し、ついにファイナルにたどりついた。

第1戦（7日）の舞台は名古屋市武田テバオーシャンアリーナ。昨年のファイナル3での敗戦から初代Vリーグチャンピオンを目指し、この戦いに向け全てを注いできたといっても過言ではない。新元号「令和」が発表されたが、われわれは「平成最後のVリーグチャンピオン」のタイトルを奪取しなければならぬ。ファイナルに向け、まず行つたの



ファイナル第1戦に臨んだ選手
（7日）

切り替え タイトル奪う

がチームのコンディショニングの回復だ。相手のパナソニックより2試合9セットを多く戦い、1月5日の広島でのホームゲーム以降、連戦をこなしてきた。

選手のほか、スタッフや事務局のサポートメンバーも長期にわたる遠征や試合でストレスにさらされている。その時々わずかな疲労が蓄積されていくと、想像以上の疲労となつてパフォーマンスにも影響を及ぼす。相手も同じ条件だが、戦う前の準備として、可能な限りコンディショニングを整えることは大きな課題である。

さて、第1戦の結果である。サンダーズは残念ながらフルセットの末、黒星を喫した。しかし、ファイナルは勝敗のみの戦い。この敗戦は第2戦（14日）に勝てば帳消しとなり、25点先取のゴールデンセットに持ち込める。気持ちを切り替えて持てる力をコートで発揮すれば、十分に勝機はある。さらに緻密な戦術を駆使し、万全のコンディショニングで臨めるよう、士気を高め良い準備を行っていききたい。

泣いても笑っても、今週がVリーグ最終戦。多くの声援と支援に結果を持つてお返しできるよう、最高のパフォーマンスを見せることを約束し、今週のコラムを締めさせていた

（JTマネジャー）